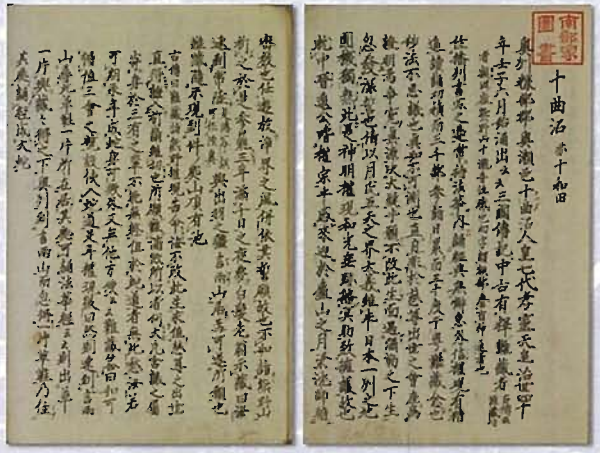
平成24年3月刊行予定

資料編　中世3　北奥関係資料

本巻は既刊の中世資料編に盛り込めなかったすべての文献資料（文学資料等は中世4に収録予定）を収録したものです。時代は奥州藤原氏三代秀衡死没の文治3年（1187）から天正18年（1590）の奥羽仕置までの資料を基本とし、中世情報の含まれる近世・近代作成の資料からも採録しました。

本巻の刊行により、青森県域を中心とする北奥の中世関係資料が網羅されたことになります。本巻採録資料の中で特に注目されるのは、全国の南部氏関係資料を集めたこと、これまで未紹介だった重要な松前関係資料を採録したこと、中世の霊山十和田と十和田信仰を知る資料群を収めたことです。



来歴集「十曲沼」
もりおか歴史文化館収蔵　元禄12年（1699）3月　十和田伝説の古態を伝える資料

本巻の構成と特徴

第Ⅰ部　南部・安藤・津軽・浪岡北畠・松前氏関係資料補遺

近年紹介された糠部南部氏と連歌との関わりを示す資料群（「卜純句集」など）、これまで全文紹介のなかった秋田家史料の織田信長関係資料、および中世の北海道に関する最古の資料である「松前年代記」や「新羅大明神御縁起」など、これまで知られていなかった重要資料を多数収録しました。

第Ⅱ部　諸家資料

南部氏、安藤氏やその他の諸勢力の動向を具体的にたどれる資料を収録しています。特に「金沢文庫文書」の「北条高時書状」は本巻編さんによる解読によって正中2年のものと確定された結果、鎌倉末期の安藤氏の乱に対する認識を一新させることになった、きわめて重要な資料です。

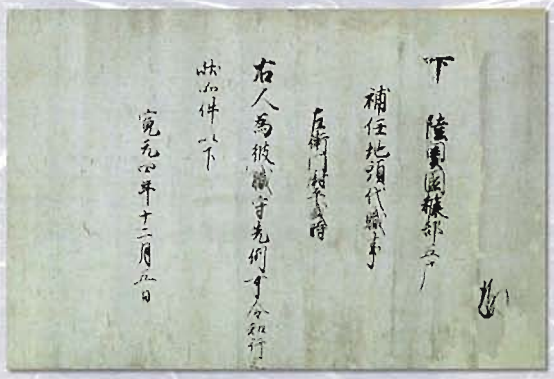
第Ⅲ部　日記・記録・法令関係資料

中世の青森県域に関する日記・記録掲載記事をこれまで未紹介のものも含めて可能な限り収録しました。また「十三往来」「津軽郡中名字」など周知の資料についても、原形に近い資料を博捜し、これを掲載しました。さらに「永禄日記」についても原本が2種類あることを確認し、部分翻刻ながら掲載しました。

写真提供：松前阿吽寺　元松前慈眼寺（のちに松前阿吽寺）所蔵如意輪観音像　飛鳥白鳳期の金銅仏　現在所在不明

第Ⅳ部　宗教関係資料

岩木山関係資料、十和田山関係資料および津軽領内延宝・元禄寺社縁起書上が本部では特に注目されるものです。岩木山関係資料は岩木山と下国安藤氏との関係を知ることのできる資料も含まれます。また十和田山関係資料は中世の霊山十和田の実像を知る資料を集成したものとしてはおそらく最初のもので今後の研究の土台となるものです。津軽領内元禄寺社縁起書上は本巻で初めて全文翻刻となるものです。



北条時頼書下　寛元4年（1246）12月5日
小田部庄右衛門氏所蔵　写真提供：茨城県桜川市教育委員会
糠部が北条氏得宗領だったことを示す資料

平成23年4月刊行

「資料編　近世5　南部2　八戸藩領」

本書は、寛文4年（1664）に、盛岡藩から分かれて成立した八戸藩に関する文書を掲載しています。八戸藩はわずか2万石の小藩でしたが、その領地は現在の八戸市周辺のほか、岩手県北まで広がっていました。山がちで寒冷地なので農業生産力は低かったものの、鉄や〆粕などの特産物があり、八戸湊を通じて全国に交易を行っていました。

本書ではこのような八戸藩の歩みや特徴を時代ごとに俯瞰し、各テーマ別に8章で構成しています。八戸藩日記などの藩政文書の他、城下商人や在郷商人の文書、藩士家の文書など、初紹介の史料を多数収録しています。

写真：菊牡丹唐草書十字紋蒔絵（八戸市博物館及び杉本旭氏蔵）
天保9年（1838）に島津家から婿入りした八戸藩最後の藩主、南部信順が持参したもの。

本巻の構成

第1章　八戸藩の成立と幕藩関係
第2章　藩政の確立と展開
第3章　地方知行制下の給人と百姓
第4章　八戸城下の構造と領内商工業の展開
第5章　産業の発達
第6章　交通の発達
第7章　信仰と宗教
第8章　後期藩政の動向

附録：天保陸奥国南部領絵図（国立公文書館蔵）
三峰館寛兆筆奥州八戸御城下略図（八戸市立図書館蔵南部家文書）